色深禁睡夢

へ13
2915
4

へ13
2915
4
特

明治九
七月六日

序

杜丹花下に睡猫あり。意蝶と在り。花と愛ふあり。
頃高振先醒の心花あり。行復蝶と戯れ。南ふ亦た
一幽の奇致と看。忽ち小冊子を書肆として草堂に
拙編次を需る支切子柳巷街の趣を聞く。亟遽
頭を掉ふ。いへ共もいまだ先筆を執る暇なく局を結ぶ
ふ。ものあらんもの題して深色殊睡夢ふ。ふいの書樓上
に醉姑ハ意金を在り。客を戀ふ。ものあらんと
忘れ。ものあらんと

柳園稿叟

帝國圖書館藏

色深狭睡夢巻之下

第五回

栫園種春編次

[illegible]

[illegible]

[illegible]

因 ほんに柳さんゆつくりさされく 男 さて花婿門でござる
ゆく結うて 因 ハイ 丈夫 男 柳めづ駕よ
それもむさ 因 物やうそんと名代ぢやくそうとそ
しく 彩先と 男 郭広ろつぐたしふ八重中郎
因 そんあつ弔 義孫も 男 さぐさも義と 因 ハイ三人ふ
ぐあつあア 男 ヤこれ大関今うさ義のゆうにでた
そちやゆいぞう柳めふちんどつあれて居ようがの
トそちやの孫 因 エそ ちんといひどやトいひそ平つぐあれ
男 アイ〳〵 そちやゆ行ちやうのどやトふうあぜ又 因 コレ
平そん地ア人ア トあ ちんぐめんぐどや

どふぞ家めいとそうてそろそろ。どうしく ありとそふ
とたのそふ。これ地ちんふちつとでる。ふうとうもう
ちふと地ちく。石岡あけ清ちんよ。三拾両むしん
いふく。大方出来ちふ ふまちんと。あんやう地まちんぐ。
ゆにもら出。清ちんもとうあぐく。其ばく あれ
柳ちんぐ彩よ ちうけさ出。どうぞちんやうふ
と。いろく 言うけて。あれ四郎ちやくいれを。
どつもちんちんふ。母孫を大ばくとふく。
あいぐ五十両むしんいふと。孫つちんぐもせぬ出。
どうぐやちとびく ちんとたびくあとやつと。

ゆうべ北日ぶろぶ。ぶ洗ふ。ぶ。ようぶ。ぶ。ようぶ。ぶ。ようぶ

ろあくみのこころれど。なほ海をみやりらうはれとまらいか
しふいあるこころう。ぱらぱらかんしゃが始らいこのしどや。
そはるこうどみが始まるそでゆーて。術の十郎一ゐはれ
ゆうやらぬ四へ。行やうやぐついおちいこのしどや因ちん
みちこと客あいうゆうゆうゆおあこどやの。備樽孫
どやのこあこきこくくしんぐけつせんしゃとぐふ
てうこあこれうこらあっぱんふ鞠のゆうゆもちあい。
ちんまうあほうらしふトきせるとおつけう因ちいぱこふふう
くんしふ。はれがこるういこと因こきこんこらあこらら
いいぱらんこまとこせくはあくぱいでもあこで

あんあこといあのしどやトこはんこまこ大閑こちあいこ
せびこらあこて。こうあいあこのうこと。はれふここここ
いふれど。はれも時那しどやいうふはこのこらあこ
いあこも。こどこふ客こもうはあうこせ。そはうこで弟
続きここいこれここ。今近みどいこうほどよどれこふ。
こうどこのこうあどいこけこあうはこれいえこく
はあこて。ふ遣ひいこでもきふ。はれも系の潤意よふ
十郎貝こらあこのはここれこんふこやうれこと
ぐ。こどみの弟めはものぐくふあいこのしどやぱこと
が其くめんも去て始あこかここちはこ通う。潤せ

小路よりちょうのうらまでとうるいぶきとうろく。神楽
うら。火吹竹まで掛へさーてぢゆうとうるだうろ
くあるつぐみの夢筍も二掛ゆとくゝ寄くゝ。それいゝ
をゝえゝ方ぢゆうふちゝそのうゑうづ出る歌日どやさうい。
これうゝいんで。ゝうゝゑゝーて。あゝゝゝゝこの歌
方ふうまゝゝし。をゝゝゝやうふ弱うけーて。柳のうまう
そのや。八重四郎の毛唐人やう。本清基のゆりうの。
をゝあゑゑむゝーんでやうゝゝ因ゝゝゝーや嬉ゝんをゝし
ゝゝ柳ゝゝゝまゝうづひゝあるゝどやあうゝあう。おゝんの
ふづうゝひゝもいうゝゝせゝんへ時うゝおゝゝんふゆうゝあゝう。

どゝやを都のやゝーゆゝあゝしゝく掛うゝれゝト
図つぐゝゝいうゝぐゝ。母者のゝる系うゝ
やりやゝゝゝどゝふゝーゝゝも。掛ゝうゝゝゝ
トゝゝゝゝゝ角ゝゝコレゝゝゝゝゝゝ
いゝゝめうゝ因ゝゝんのゝゝゝ
掛ゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぜうくふどやあめくさあア 女 そーつことをとさいてをめく
ドやあるさぎやたうとりさ。めをさあはうちゆうう
ちあくれ 坊 そふどやまさ今ぶあふ縁ゆにとしく
鼻のめくせよぎや トそうそうそう

作者善是と知雖浪の邑人尿實良ゞ流行しあり
と唱へて通行しあり

第六回

実景剣殘辰尚重

秋はあいさふそえうつる。
紀の伺葉ゞはたらの言花剣殘頃尚暑と。筆ゞ
をべりてをれ辰。うらふれ人に涼風はゆうく
かりふまト刻。まのぶてをぶまーのむーをてゆ
今辰みゆ。湯と名ゆもをりうふゆぶへおゑ
とゆちゆ。移をゆをは。二ーさうをゆく
物ゆはゆぶうふ門とをうを。へまうゑ

ふんべうをきん物をうをぶふ物助ゞ間ゞうの付人今間清をうゆ申み
はをーー移ゞはーーと係をぶんまゞいうふあいさふぶゞう
生はあゆ。虫ゑ地ゆゆめはせんゆをはうをふさとあゞゆ
ゆはふ園ゑやつれゞ二人今ふをうをう。糸いをこれへ
楽間さうーゆし。涼衣も二ツ出して着ゑをはをりふ
沢山出さうー。先湯へをいうゆはふトゆぶひさげゆへゆさ
をそあゞゆをと申おさはさーひーうのをうけ移ゞはゆ
ゆをーーはゆとゆれうる
コレを掾ふ地ゞーをう土衣をあいをく
地ゞいとあうはさい一両ゞゆ又十両あうをる
トはと園ハイ地ゞびをさうを園コレをうとはいいの

たんと出してもかれ 下 ハヤ〳〵トいつて
ゑぐいすぐ出けゲをふつてよみんがナ 因 いのこいやこしどや。
きりし 峠 ようやし きぢや ト 御助といふこゑを清吉ふしんたく
仲 あふむくひ小ぐるまつく
因 とあつ小ぶるをぐちのをめぐしどおいう 仲 小数 あれい
大夫殿の媚婦大角さんこいふのぐ助ようをけうと
こよりはお子ぐ助ようはトこれとは 清 コレ助てゆへ用ゲあらべ
よぶこう。勝をへ行て居く。はれぐつまぐ来こう。ゑそうふ
こへ通りこ上せへト 武 紙一つ 仲 因 これを助あうがナふ。
かしこあるうゆこしこト 三 ふはを表ふするのをぐうとあつけ
手の 三 ふのこへと三つもちこうとあつけ
ぶつこうもをうやせぐちこうとあつ
ぐ上がこと男がこの男のあすぐ白くすぐ白くすぐ白く

夢とうんとこ却もひそふ〳〵ちやさこうん合つけていき
をいふさうぬ。鞘ぢ〳〵ぶ。ぶ。ぶ。

そうけと物をうてまりあいを因ゆめべのをうひらま
うけく墨さよけうく。大方今夜をうくしやあるぐをう
れを紙入をと物をうてちやを図コヲそをうぐ物をうを
同をぐをを小さい家をのようふをくるいをうを物をこでも
物をうふをぐをちふてむけををうをぐを因をうふを
をををのをうひよををふや。今は客に物をされん図どふ
で園中は同をは物をひやをれ妖因をうんをいをア。
やあられくをぐでもつけい　トむのあつやにををさんでをみが
図をくしやめト　ぐををひををるをやくしふをるくふをうぐふ三人い
図ふをちをやけをア　あをれて一ををくしをを物をたをを侯をを吉を物をををを